

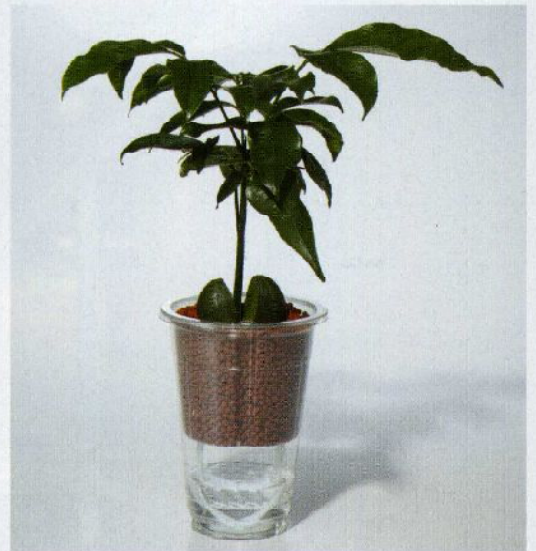
低CO₂、高濃度CO₂の空気環境をつくる カーボンオフセットプランツ (COP)



多肉植物であるエアプランツも、夜間に光なしでCO₂を取り込む。



昼間にCO₂を取り込む昼型植物と、夜間に取り込む夜型植物をコーディネートした寄せ植え。



植物にも人にもやさしい 底面給水

水受けに垂らした紐が水を吸い上げるシンプルな仕組み。水やりの手間が省けるだけでなく、抗菌性のある給水テープを組み込むことにより、雑菌が繁殖せず、水がクリーンに保たれる。(日清紡ホールディングス開発)



COPは、CO₂吸収能力が、1～5のレベルとポイント数で表記されている。たとえば写真のいちばん大きいコショウランの鉢は、レベル5、ポイント12,804。

人にもやさしい給水の底力

植えがつけられるのではない。そんな発想に基づくプロジェクトが、昨年、東京・世田谷にある「コップステーション」を主体にして始動し、「カーボンオフセットプランツ(COP)」という商品名で、楽しい寄せ植えがつけられています。使う植物は、特殊技術によりCO₂取り込み能力を高めたものです。こうした環境浄化作用に着目した植物が今、次々に開発されています。

地球温暖化の原因のひとつとして問題になっているCO₂は、植物にとつてなくてはならないもの。植物をよく知り、共に暮らせば、地球環境を身近に感じることが出来ます。

観葉植物を長く楽しむうえで、こまめな水やりは欠かせませんが、それでは旅行にも行けませんね。それを解決する方法が、「底面給水」です。仕組みは簡単。鉢の底から紐を垂らし、鉢の水受け皿に紐の反対部分を浸します。すると毛細管現象により、水受けの水が鉢の中に供給されます。たっぷり水を入れておけば数日間はこのままで十分です。

最近、この紐状の部分に抗菌性のある給水テープを組み込んだ商品も登場。水中の藻や雑菌の発生を抑え、見た目にもクリーンで美しい状態が維持されます。お試しください。

㈱大田花き 花の生活研究所
所長 桐生 進
<http://www.otalab.jp/>